



## 『大和本草』の藻類：ウケウト

仲田 崇志

『大和本草』（貝原益軒。本文が宝永 6/1709 刊，附録と諸品図が正徳 5/1715 刊）に図示された桜苔（サクラノリ）を以前に紹介した（仲田 2024）。『大和本草』には他にも藻類が載っており，その一つがウケウトである。

付録巻 1 第 4 丁表に「ウケウト 海草也煮テトコロテンノ如クカタマル。コンニヤクノ色ナルモアリ非<sub>レ</sub>佳品ニ<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>食」とある。さらに諸品図第 20 丁表に図示され，「海草其葉如<sub>レ</sub>此煮<sub>レ</sub>ハ凝<sub>レ</sub>テ如<sub>レ</sub>氷心太ノ如シ色紫ナリ人食<sub>レ</sub>之有<sub>レ</sub>小毒」\*1 との説明が添えられた（図）。

陶山（1890），岡村（1902）や遠藤（1911）はエゴノリ（糸ご，糸ごのり；*Campylaeophora hypnaeoides* J. Agardh）の九州方言としてウケウト，さらにウケウド・ウキウド・オキウドなどを示している（益軒は福岡藩士）。沖独活\*2 と書かれるようだが，これは後付けのようだ（遠藤 1911）。一方，北陸・山陰地方でエンゴ，佐渡でイゴと呼ばれたらしい（陶山 1890）。

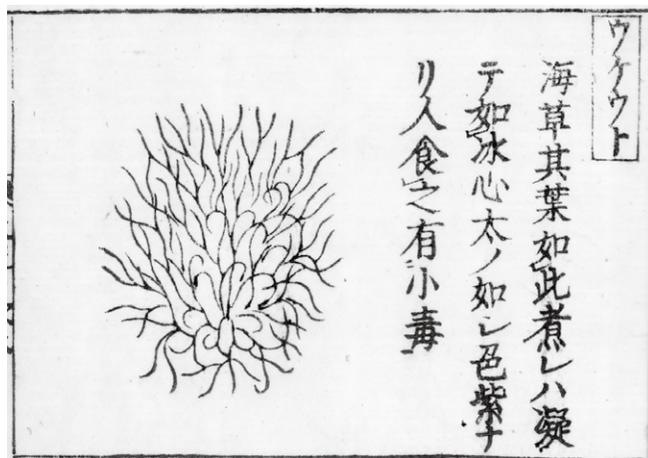
エゴノリは寒天の原料ともなる紅藻類で（田中・中村 2004，阿部ら 2012），『大和本草』の記述とも一致する。またエゴノリは鈎状に曲がった枝で他の海藻に絡みつくが，『大和本草』の図にも鈎状の枝が描かれている。サクラノリとは異なり（仲田 2024），益軒が直接観察した可能性がありそうだ。

\*1 氷：氷の異体字。心太：トコロテン。

\*2 独活：ウド (*Aralia cordata* Thunberg)。

### 引用文献

- 阿部秀樹・野田三千代・神谷充伸 2012. ネイチャーウォッチングガイドブック：海藻. 誠文堂新光社，東京.  
 仲田崇志 2024. 『大和本草』の桜苔. 藻類 72: 164.  
 岡村金太郎 1902. 日本藻類名彙. 敬業社，東京.  
 陶山清猷 1890. 有用藻譜，第 1 編. 集成堂，東京.  
 田中次郎・中村康夫 2004. 日本の海藻：基本 284. 平凡社，東京.  
 遠藤吉三郎 1911. 海産植物学. 博文館，東京.



『大和本草』（新校正）のウケウト（諸品図第 20 丁表；架蔵本. 宝暦 11 / 1761 版か）。

（北海道大学大学院理学研究院）